
芹香—serika—

sk.mrsk

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

芹香 | s e r i k a i

【Nコード】

N2340X

【作者名】

s k . m r s k

【あらすじ】

昔からいじめられていて学校が嫌いだった芳沢芹香よしざわせりかが巖島智弥いづくしまとちやと再会して智弥に引かれていく……だが、ある日姉紗季あねまきの恋人が芹香の友達美里も好きでありどっちの味方になればいいのかで姉や妹との姉妹関係が……芳沢紗季・凧なぎ・華奈かなそして、芹香の4姉妹のそれぞれの恋愛が複雑に入り交じりあって成長して行く物語り

再会

1・芹香

朝日の昇りつつも寒い6時半に芳沢芹香は、河川敷に行った。先から、会う人会う人が私を見ている。赤色のスカートに赤のリボンそれに学校の校章が入ったブレザーどこから見つても地元の学校の学生であるのが分かる。もっともこんな速い時間に制服で歩いているのは私くらいである。

今日は何故こんなに早く家を出てきてしまったのだろうか、多分昨日夜に妹の凧と喧嘩してからだと思う。このまま学校に早く行っても何もやることがない。私は、河川敷にある階段に座った。雲が良く見える私は目を瞑った。川の流れる音・鳥の鳴く声・花の香りいろいろな音が聞こえて来た。普段気にはしていないが改めて自然の素晴らしさが良く分かる。こういう時に普段ならカメラで写真を撮るものだ。でも、今日は写真部が休みで持て来ていない。そんな時に

『ポン』誰かが私の片を叩く音がした。私は知らない顔をする。

「芹香？芹香だよな？」私は友達だと思い後ろを向いた。私の後ろには緑のネクタイを着けた人がいた。私は、そのネクタイで違う学校の人であるのが分かった。顔を見た、その顔は幼なじみの智弥だった。

私はそれまで静かに口を閉じていたが、いつの間にか「智弥！！お

久しぶり」 私は、元気に言った。そうすると、今度は智弥が隣に座り「芹香元気だった？今の学校では、いじめられていないか？」と言ってきた。私は一瞬にして『ズキッ』と感じた。「また、いじめられているなら、俺が助けに行くぞ。」と智弥が強気で言う。私は智弥にだけには昔からウソをつけない「いじめは、今の学校でもあるよ」私は、智弥に言った。智弥は、暫く黙りこんでいた。そよ風が吹き始めた頃に智弥の口が動いた「芹香、昔からいじめられてそっちゅう助けて守ってやったよなあ、今度も学校は違うけれども助けたあげるよ。」私はこの時に確信した、智弥なら絶対に守ってくれる。私は、自分の携帯の番号とアドレスを教えた。照れながらも、智弥も教えてくれた。私は、智弥と言う強い存在がいることが自分にとって幸せであること自己満足ながらも思ってしまった。

そして、私はスクールバックを持って、智弥に言った。「帰りに私の学校の前で待って欲しい」と、智弥は、顔色変えずに、「分かった」と言った。智弥は、スツと立ち上がり歩いて行ってしまった。『ブーブー』私の携帯が鳴った。私は、携帯を見る友達の美里からメールが来ていた。「集合時間だけど、今日は休むの？」気がついたら、美里と一緒に行く時間になっていた。

私は、美里に「妹と喧嘩して、今日は早く家でちゃった。ごめん。詳しいことは学校で話す。じゃあ」私はそう返信した。私は、帰りに、智弥と会う約束をしたそして、私は元気に歩き出した。今日の朝は心地よく感じた。

再会（後書き）

初めて書いた作品なので、頑張つて今後も芹香と智弥のことを書いてと思います。

告白

2・智弥

智弥の学校は、芹香の学校から三キロ先にある。朝から補習授業がある。いつもなら片道20分を歩いて行く。もっとも、芹香の学校も智弥の学校も河川敷沿いにあり散歩者が多く歩行者優先道であり自転車よりも歩きの方が断然良いと思い歩きで行っている。

智弥は、遅刻ギリギリで登校して来た。教室に入りクラスメートの馨が「おはよー、今日はどうしたこんなに遅くって…」僕は、「ただの寝坊と答えた。」授業が始まっただが、今日はそんな授業に集中出来るようではなくずっと窓の向こうの雲を見ていた。

昼休み、トイレに行き携帯を開けて見る。メールが一件来ていた。僕は芹香からのメールだと分かった。そして、メールの内容を見る。メールには、「今日の4時に学校の前で待っていて」僕は、「必ず行くから待っている」と送った。そして、授業が終わり放課後になり、芹香が待っていた。

芹香

智弥が去り、芹香は1人学校に向かった。学校に着いていてから、ぼどなく美里が来て「先いくなんて、ずるいよ先行くときはちゃんとメールしてよ。それより芹香なんで、凧ちゃんと喧嘩したの？」美里が聞いてきた。私は「凧の奴、芹の化粧水を勝手に使ったから怒ったのそしたら、凧がお姉ちゃんがいじめて来たって言って私が怒られたのそれで、今日は早く家を出たの」と言った。

授業が始まった。私は、智弥に「今日の4時に学校で待っていて」と送った。お昼休みに、智弥から返信が来た。「必ず行くから待っている」と来た。やったと思った。1人で騒いでいたら、友達の夏希が「ちよと、芹香今日は朝から本当に変だよ。何かあった?」私は、「朝、妹と喧嘩しただけ」とウソをついた。

だが、クラスメートの奈美子が「芹香は、いろいろと分らないと言つか、訳わかんないところがあるね。」そう言つと、他からそうだそうだとする声が聞こえた。美里や夏希は私をかばってくれたが、私はあわつてて教室を出る。

私は、中庭に来た。ここは、ちゃんと整備されていていつ来ても綺麗な花が咲いている私が学校で一番好きな所である。私は、中庭の見えない所に隠れて1人泣いた。その後、私は午後の授業始まった。学校が終わり、智弥の学校に泣きながら走って行つた。

智弥はまだ来なかった。しばらくして、智弥が来た。私は、「智弥今日はありがとう。私は、今日智弥と会って元気出た。だから、変だけど、智弥私と付き合つて?」私は、智弥に引かれてしまった。智弥は、「芹香ありがとう。付き合つて良いよ。」と智弥は言った。私は、凄く嬉しかった。

こうして、私は智弥と付き合うことになった。

その日は、二人でかえつていった

告白（後書き）

今回は、第2話です。

今回は、芹香と智弥が学校に行きそとして、付き合っ話になります。

芳沢四姉妹

3・芹香

夜芹香は、浮き浮きしながら家に帰って来た。

私は、部屋に入りすぐに智弥に「今日は、ありがとう。私は、嬉しい。今日から智弥とは恋人どうしだね。これから、宜しくね」とメールした。私は、母親が夕御飯を作るのを手伝った。程なくして、夕食になった。夕食が終わり私は、部屋に戻った。携帯を見る、携帯には、智弥から「メールありがとうねえ。でも、芹香が以外なことにまさか俺と付き合うなんてなあ〜本当に以外だなあ〜（笑）」と言うメールが来た。メールをしようとしたら「芹ちよと来て」双子の姉の紗季あきが私を呼んだ。「芹、あんたさあ今日部活なかったのに何で私より遅く帰って来たの？」と聞いてきた。私は、友達の家で遊んでいたと言った。「なんだテツキリ補習かと思った。」紗季は、私の勉強ばっかり気にしている。紗季は、隣の学校に通っているだから、私より帰り遅いは当たり前である。「ねえ、芹今度の土曜さあ、駅前の喫茶店で勉強会しない？」私は、ええ、紗季がこんな事を言うのは、珍しいと思った。普段なら「図書館で勉強しない？」となるのに、紗季が違う所を言うのは、珍しい私は、「紗季何かあった？」と聞いた。紗季は、「何も無いけど何で聞くの？なんなら凧かなと華奈も連れて行く？4姉妹で勉強会する？」私は、「何でも無いけど、凧と華奈連れて行くところさじゃない？紗季それに何でそんなこと言い出したの？」

紗季は、「その日は、特別なことがあつて凧と華奈それに芹を連れて喫茶店に行くの」私は、興味深く「土曜って何かあつたけ」と聞いた紗季は、「忘れたの、その日は私と芹の誕生日でしょあそこの喫茶店は誕生日記念で安いのよ」私は、「そうだった。でも、私はその日は用事があるからムリだよ。悪いけど三人で行つてごめんね。紗季……」紗季は、「ならいいんだ、でも珍しいんじゃない、私がムリにさつそたんだから、別に大丈夫だよ。」と紗季が言ったので私は部屋に帰った。私は、智弥に「今度の土曜日芹誕生日なんだあ。智弥土曜空いてる？」とメールした。直ぐに返信が来た「芹香土曜誕生日だったんだ。紗季ちゃんもだよ。芹香と二人でどこかに行きたいね。誕

生日だし、明日も朝大丈夫？一緒に行こう。」とメールが来た。私は、「良いよ。じゃあ」とメールして、勉強を始めた。

芳沢四姉妹（後書き）

今回は、芹香と姉の紗季についてでした。これからは、紗季・凧・
華奈・芹香そして、智弥を中心に書いていきます

嵐の前の静けさ

4・紗季

紗季は、芹香と一緒にいじめられていたそんな、紗季の人生を変えたのが、中学の時に興味本意で入った吹奏楽部だった。紗季は、入部してすぐにトランペットの演奏を任されたが、すぐには弾けなかったが、1年の夏には弾けるようになっていた。その頃から紗季には、たくさんの仲間が出来ていた。高校受験が近づき紗季は、吹奏楽部のありインターハイにも出ている隣町高校を受験した。結果は、合格して現在は吹奏楽部の部長にまでなっている。そんな紗季が最近彼氏が出来たと自慢して来る。

「紗季姉、彼氏連れて来て」と凧が言う相変わらず凧は言葉が荒い。紗季は「はいはい」と言った。

紗季は、次の日に学校へ行った。いつもと変わらないはずの朝はずなのにちよつと違う朝だった……

紗季は、いつもの時間に彼氏がこないのに変だと思った。紗季は、すぐにメールした。彼は、「寝坊した」とメールして来た。

紗季は、反対のホームから委員長の早織が来るのが分かった。紗季は、いつもの電車で学校へ向かった。

その日の朝日は、これからの四姉妹に訪れることを予感した。静かな朝だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2340x/>

芹香—serika—

2011年10月21日22時12分発行